

ロータリー雑誌月間にあたって

東北地方太平洋沖地震で被災された皆様に
心よりお見舞い申し上げます

このような時にロータリー活動をしている場合ではない、と思われる方がおられるかもしれませんが、このような時だからこそ、ロータリー活動に本気で取り組むべきなのではないでしょうか。

助けを必要としている方々がすぐそこにおられます。私たちが日ごろから学ぼうと努力している「奉仕の心」を、今こそ実践する時です。ロータリアンとして胸を張って、行動してまいります。



4月はロータリー雑誌月間です。

ロータリークラブに入会する際には先輩諸兄から会員の権利や義務などについて、さまざまな説明を受けます。その中でロータリアンの義務の一つとして、雑誌を購読しなければならない、という項目があります。

どうもこの「読まなければならない」という頭ごなしの強制感に、拒否反応を示す方も少なくないような印象をかねがね抱いております。押し付けられては読む気が失せるのもある意味当然で、それ故に「読まれざるベストセラー」と揶揄されることもあるようです。

どうしてもこの義務意識が前面に出てしまうと、気分的にも重苦しいものがあります。そこでとりあえずは、この義務感をいったん脇において「ロータリーの友」を見つめ直してみたいかがでしょうか。

社会人が日々新聞に目を通すように、ロータリアンとして毎月雑誌に目を通す。そんな自然な習慣を身に付けたいものです。

新聞は多くの方が毎日読まれていると思いますが、とはいっても紙面の隅々まで読破する方は少ないでしょう。それと同様にロータリーの友も、すべての記事を読み切る必要は必ずしもないと思います。皆さんにとって必要な、関わりのある情報を吸収していただく。それで十分だと思います。

ご自身のクラブや地区のニュースはもちろん、交流のある近隣クラブの動きやRIの動向なども把握しておけば、ロータリー活動を進めていただくにあたって、大いに役立つはずです。あるいはRIの指定記事や講演記録など感銘深い、有意義な気づきを与えてくれる記事も活用

したいものです。

また今後の事業計画立案に苦慮されている方々にとっては、世界や国内各地のクラブで今、どのような活動が実施されているのかを知ることができる、重要なネタの宝庫でもあるはずで、あれこれ勉強して少し疲れたときには、川柳や趣味の記事などで、頭を休めるのもいいのではないのでしょうか。

雑誌にはそれぞれご自身のニーズに応じて、いろんな活用方法があると思います。息が詰まりそうな「義務感」からは解放され、自分の興味が向くことを一つでも吸収するつもりで気楽にお読みいただければロータリーの友が案外、身近な存在に感じられるかもしれません。

こうして雑誌とあなたの接点を発見していただいたら、今度はロータリーの友との親睦を一層深めてみてはいかがでしょう。それにはロータリーの友に参加していただくことです。例えば日頃ロータリーであなたがお感じになっていることを投書してみるのも一案。またクラブ広報の一環として、事業の記事を投稿することもぜひご検討ください。あるいは俳句や川柳など、あなたの作品を投稿されてもいいかもしれません。

雑誌には人それぞれ、いろんな楽しみ方があるはずです。雑誌月間にその楽しみ方をもう一度、考えてみませんか。そしてより有効な雑誌の活用方法を考えてみることもいいかもしれません。

あるいはさらに一歩進んで、広報を強化していくべきこれからのロータリーにおいての雑誌のあり方などについて思いを巡らせてみることも、意義深いのではないのでしょうか。